



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくらい内
TEL&FAX:0744-47-3981
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

平成23年11月

うるわし通信

文化・芸術の秋です

文化の秋です。今月は積極的に文化に関わっておられる会員の活動のいくつかを紹介いたします。唐突ですが、人間は時間と空間、つまり時空に束縛されています。時空は世界の別称といっても良いでしょう。幼児は生れてから暫くの間は時空をわがものと把握して振る舞います。これが分からない大人が最悪の場合、虐待死をもたらすのです。

いきなり、話が飛躍しましたが、人生が必ずしも思い通りにならない、そういう時空の間に生きていることを知った時、ひ

とは自分の時空を造り出します。スポーツもその一つでしょう。ここでは別のルールがその時空を支配し、一般の社会ルールに不満のひと、やすやすとしてそのルールを遵守しています。

もっと先進的なのは、芸術といわれるもので、これは不断に新しい自己の時空を造っては、また自ら打ち破り、更に新しい自己の時空を造り出すという行為の連続です。

一般に文化活動といえば、わたしたちを制限している社会の時空を一時的にしる脱し

て、別に造形された時空、即ち別の世界、例えば文芸・絵画・演劇などと積極的に関わろうという活動だとわたしは思います。この中から新しい文化が生み出されてくると、それは素晴らしいことなのです。

さて、今年の3月11日東北大地震という恐ろしい事態が発生しました。この大自然が造り出した異常な時空。ここで前後10日間ボランティア活動をされた会員がおられます、これを特別な意味で初めにご紹介します。



春の菜の花畑（桜井市高家地区） NP0法人さくらい菜の花プロジェクト

東日本大震災ボランティア活動を通して 平等寺副住職 丸子孝仁

3月11日の東日本大震災から毎日、震災で亡くなられた方々のご冥福と被災地の方々の無事を祈り手を合わせていました。震災から3日後に募金箱を作り、次の日の早朝から僧侶達が各々の最寄りの駅で募金活動することになりました。私も桜井駅と田原本駅で募金活動をしました。私は震災前から腰痛がひどい状態でしたが、被災地の皆様にくらべたら私の腰痛なんてなんでもないと思い、できる事をやりました。

4月初めに僧侶6名と一緒に岩手県山田町の避難所で傾聴ボランティア（行茶）に行ってきました。何もかもが津波に流されていた、あまりもの悲惨な状況に皆が涙を流しました。まだ積雪の残る寒さ厳しい中、食物も飲み物もない暖房も何もないところで精一杯生きぬいた被災地の方々が、深い悲しみの中に先の見えない過酷な避難生活を強いられていました。温かい飲み物とお茶菓子をお配りしながら、お身体の調子等をお聞きしました。中には九死に一生を得た体験や辛い経緯を、お話しくださった方もいらっしゃいました。「久々に温かいコーヒーが飲めました」と喜んでいただきました。夕方には避難所の方々のニーズをまとめて役所に届けました。

5月には10名で岩手県宮古市に行きました。その時は津波で側溝に溜まった泥やゴミの撤去でした。側溝が完全に埋まっているところもあり、全員で泥にまみれ汗だくになりながらかき出しました。最終日、地元の方に宮古市田老町をご案内いただきました。この辺りは過去に何度も津波があったところですが、その堤防の上部は決壊して無くなっていました。ご案内くださった方が全てを流された悲惨な町を見つめながら「この様子を写真に撮って一人でも多くの人に伝えてください」と話されました。いまだに津波の傷痕は生々しく残り、地震が毎日のように続き、原発事故は収束の見通しが立ちません。今後も被災地の方々に心を寄せて出来ることをしていきたいと思います。



2009年「読未知（よみち）を立ち上げました」 福島 千佳

大人向けの読書会を開きたかったのが直接のきっかけです。月に一度、本を読むことが好きな参加者が集まり、一冊の本について語り合う読書会。今では、少人数ではありますが、桜井市民だけではなく、県内の各地から本好きな仲間が集まり、コーヒーを飲みながら、音楽を聴きながらの楽しい会となっています。それまで桜井には読書会というものがありませんでしたが、この地から発信する本を通じてのコミュニケーションは、今、少しずつ広がっています。

そして翌年、今度は子ども向けに本を通じて何かできないかを考えたのが「子ども読未知」です。桜井市内で本の読み聞かせができる人材（ボランティア）が減っている現状を知り、若い世代を中心とした読み聞かせの人材育成を目的としてスタートしました。読み聞かせ講師に、ふくいしげこ先生をお呼びし、月に一度学び合う勉強会は、仲間が集い、教養を高める時間となっています。

「子ども読未知」は、現在2年目に入り、参加希望者やボランティアの数は順調に増えています。実際の活動としては、桜井市立図書館で第3土曜日に、「おはなしのへや」を担当し、夏休みには「戦争をわすれないために」という朗読会も行いました。

まずは楽しく学ぶこと。それぞれの個性を大切にしていって、自分が楽しいと思える本とのつながりを各自が築いてゆく。今ではそんな「子ども読未知」に成長しています。

来年1月の図書館フェスティバルでは、吹奏楽団「やわらぎハーモニー」といっしょに、音楽と読み聞かせのコラボレーション企画に取り組んでいます。

これからも本と人をつなぐサークルとして、活動を続けていきたいと思っています。



会員募集中 電話 0744-44-1003 中原まで

心のリフレッシュ

桜井川柳会会長 島岡 美智子

桜井川柳会は毎月第3日曜日午後1時から4時迄まほろばセンターで開催しています。宿題3題各3句ずつ詠んで行きます。

先日、桜井市主催の桜井市民川柳大会がなごやかに開催されました。79名の出席者で会場は熱気ムンムンでした。川柳は短詩文芸で人間の心を五七五で詠みます、心を詠むのは大変ですがそれが魅力で、嵌ってしまうとだんだん面白くなって来ます。50年60年のキャリアの人から1年足らずの人と同じ土俵で句を作る大変だが発表された時の感動が弾みになる。30歳代から90歳代迄の会員さんが生き生きと頭の体操をしておられます。時事川柳でチクリと世を風刺、悲しい時も、嬉しい時も句にぶっつける生きがいになるとおっしゃいます、五感を働かせて私も絵と川柳で謳歌したいとおもいます。



柳友募集中 電話 0744-43-3064 島岡まで

桜井市民川柳大会

市長賞（香り）	ドクダミへ父の叱咤がよみ返る	中村 周子
議長賞（はらはら）	予定日を大きくずれているお腹	麓 義久
教育長賞（便り）	良く喋る雀に聞いた稲の出来	北谷 敦美

桜井市民短歌大会

第48回短歌大会が10月30日まほろばセンターで行われました。上位三首は次の通りです。

- 市長賞 棲み分けて黄花コスモス、カンナ咲く あなたの中にわたしはゐない 原田 恵里
評 自己疎外をテーマとする現代短歌。
議長賞 寒蟬の一声高く飛び去りぬ言うべきことは言うておこうか 高松 隆司
評 自他渾然一体となっている。
教育長賞 風に舞う黄帽子追って若者が川に入りゆくしなやかな脛 玉置 順子
評 みずみずしい感覚、官能がある。

イベント『談山セッション』

東日本大震災から半年経った去る9月18日、談山神社の権殿(重文)で、『談山セッション』復興と未来のビジョンのために 日本人とは、魂の源流—という催しを行い、全国から120名余りが参加しました。宗教学者の山折哲雄先生はじめ4名の文化人によって熱の入ったディスカッションが繰り広げられましたが、政治力・経済力は国政の専門家に任せ、当社では文化力・宗教力によって国難後の復興を、という試みを行ったのです。この時点で全国の神社では唯一の試みでした。

神道は宗教なのかどうか、という議論は今もあります。単純に言えば、宗教ではありませんが、といって道德だという戦前の神道観には深い思索の道がありません。当社はこの思索の道を開拓したいと思っています。

談山神社宮司 長岡千尋



秋の談山神社

事務局だより

11月の常任理事会は11月21日(月)午後7時よりエルト桜井第6研修室にて開きます。

部会だより

歴史部会 記紀万葉プロジェクト桜井協議会の立ち上げを計画しています。

産廃部会 聖林寺の国宝十一面観音像を悪臭からまもる会を立ち上げ、文化財保存法や悪臭防止法等の展開を含めた活動を始めて行きます。

会員募集中 どなたでも(市外の方も)入会できます。くわしくは事務局まで。
年会費 個人 ¥2,000 法人 ¥20,000

編集後記 今回ご紹介したほかにも、活動されている方は多い筈です。情報を求めて歩き廻りながら早くも12月号、新年号を考えていますが、そんな時ふと新年交流会など開いて楽しい交流をしては・・・と思うことがあります。(あさ)

うるわし通信編集責任者
〒633-0091
桜井市桜井142-5-203
浅川 肇
TEL090-1961-6345